

きっと飾りたくなる未来へ。

will

KYOTO
UNIVERSITY

vol.
2

e..



will be

きっと飾りたくなる未来へ。

京都大学で、学び、研究したことは、
あなたの未来をよりかがやくものへと導きます。
卒業し、様々な分野で活躍する
先輩の姿は、近い未来のあなたの姿。
あなたも京都大学で、
飾りたくなる未来をめざしませんか。

I N A B A K A Y O

Greeting 01

稲葉 カヨ

男女共同参画・国際・広報担当理事、副学長、
男女共同参画推進センター長

本学を卒業した女性たちの中にはチャンス
を掴み、また今もチャンスを得るために努力
し続けている人が大勢います。彼女たちがど
んな風な社会へと飛び立ち、世の中で活躍を
しているのかを知り、ロールモデルとしていた
だくために本誌を作成しました。

チャンスというものは偶然訪れるものでは
なく、自分自身を見つめつつ、能力を最大限
発揮できるように努力をした結果、捕まえ
られるものです。そのために、男女を問わず
若い人たちは、自らを強く鍛えるということ
を常日頃から心がけて欲しいと思っていま
す。失敗は失敗ではありません。あくまでも
強くなるための一つの経験です。その都度、
自分の中で原因を咀嚼し理解・改善するこ
とで打たれ強くなり、次に繋げることができ
るのだと思います。壁にぶつかっても諦めない
で、しなやかに、たおやかに、折れないように
強く生きてください。やがて来るチャンス
を確実に掴むために。





KITANO MASAO

Greeting 02

北野 正雄

教育・情報・評価担当理事、副学長

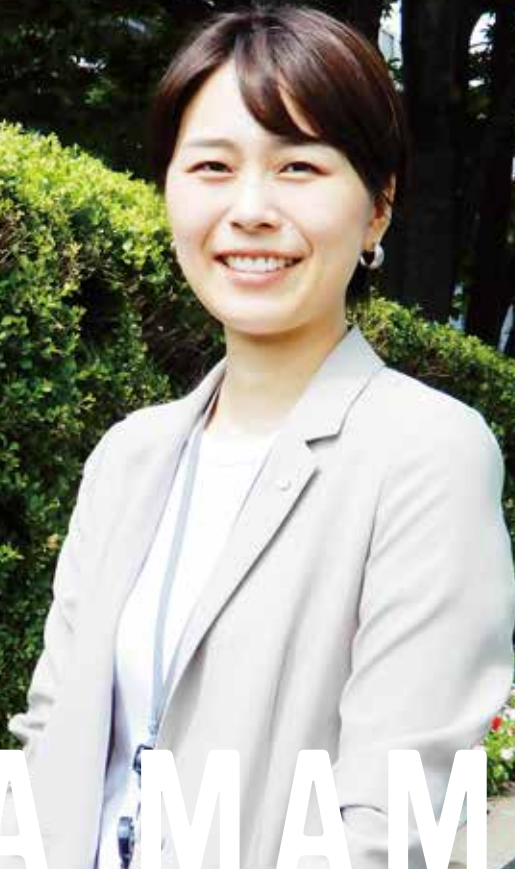
京都大学は近年、歩むべき指針として「WINDOW構想」を掲げています。目指す六つの目標から頭文字をとったものですが、その「W」ICがWomen and the World—つまり女子学生や女性研究者の支援です。現状はまだ学生に占める女性の比率は2割、教員においてはわずか1割にとどまっていますが、彼女たちを身近で見ているとパフォーマンスが非常に高く、社会に出ても自然な形で自身の役割を果たしている人が多いと感じています。

大学に入ることにはゴールではありません。大切なのは大学で何を勉強したいのかという志であり、その先に続く未来のビジョンです。志がなければ、飛び込んだ先で立ち行かなくなる場合が往々にしてあります。ぜひ自らが実現したいことのイメージを持って、大学や学部学科、そして将来を選んでください。本学は志ある女性に対し、窓を開け放っています。本誌に登場する先輩の姿が、その選択の参考になることを願っています。

より美しく。
世の女性が美しく、
毎日笑顔でいられるように。

NISHIOKA MAMIKO
西岡 真実子

文学部 行動科学科 卒業
高知県 土佐高等学校 出身
株式会社ワコール



ISHIOKA MAMIKO

01

ひたすら部活動に励んだ高校時代。

高校時代は体育や体を動かすことが好きで、バレーボール部に所属し、部活中心の生活を送りました。部活が休みの日は、友達とクレープを食べに行ったり、カラオケに行ったり、プリクラを撮りまくったり、どこにでもいる普通の高校生でした。3年生になり、部活が終わると同時に、あこがれだった京大をそのまま目指すことにしましたが、現役時代は普通に受験勉強をして危機感も少なく、学校や塾の勉強をしていました。受験に失敗し本格的に京大を目指すことを決めてからは、今までの生活が一変し、早い時は朝の8時半から遅い時は深夜2時まで、地元の塾にこもって仲間と一緒に勉強しました。文学部を選んだのは、もともと日本史や世界史といった暗記系科目が得意だったことや、自分の興味がある学問は何か?と考えたときに、歴史や心理学、社会学などそのほとんどが文学部で学べるものだったからです。通っていた高校が自由な校風で、京大とも共通するところがあるので、自分には合いそうだなという思いもあり、絶対に京大!という気持ちを持って必死で勉強していました。塾の中で切磋琢磨する中で、自分を見つめることができ、仲間とともに刺激し合った日々は今でも大切な思い出のひとつです。

もがき苦しみ、自分ができることをすべ
てやりきった受験。合格した瞬間は何事
にも代えがたい喜びがありました。



チームのまとめ役として、再び部活動に熱中した大学時代。

京大文学部に入学した後も、引き続き女子バレーボール部に所属。部活動を軸に置き、授業やバイトのスケジュールを立てる毎日でした。副キャプテンとして、部員の技術レベルやモチベーションの足並みをどうやったら揃えることができるのかを考えたり、大学内の体育会という組織の会議にバレーボール部代表として、毎週出席していました。時には部の運営に悩むこともあり、部活をしていない人をうらやましいと思うこともありましたが、その環境を選択したのは自分で、その中でしか楽しめないという事もよくわかっていたので、選択したからには悩むことや辛いことがあっても、その環境をより楽しもうと考え、悔いのない学生生活を送りました。生き甲斐を持つて生活することの大切さを学んだ日々だったと思います。授業のある日は2限目から4限目まで出席、その後は21時まで部活、部活が終わると部員と食事。休日にはひたすら家に引きこもってYouTubeを鑑賞する大学生活でした。大学生活の中でできた友人は、自分のやりたいことを貫く、群れない、思いやりがある、賢くユーモアもある人ばかりで、今の自分とも通じるものがあり、私が高校時代に思い描いていた「京大生」のイメージとほとんど同じでした。



今、自分が選択した環境を楽しむ。

就職活動では、女性が生き生きと働いている企業を軸に動きまわりました。その中でもワコールの「世の中の女性に美しくなってもらうこと」によって、広く社会に寄与することこそ、わが社の理想であり、「目標であります」という企業目標に共感し、「ここで働きたい」と思いました。

現在は材料を扱う部署で、デザイナーが選んだ材料が量産に適したものをののかを判断したり、お客様が安心して身に着けることができる生地、生産場所なのかを確認したり、似た材料を安い材料に集約してコストダウンをはかる業務を担当しています。自分の判断がそのまま製品の品質や原価に直結するため、材料開発のタイムミングで自分が押さえきれなくなることがトラブルにつながることもあります。モノづくりの要ともいえる部署で、学生時代とは比べ物にならないほどの責任範囲の大きさや、責任の重さを日々感じ、自分の力不足に悔しさを覚えることも数多くあ



COLUMN 01

こうやって勉強してました。

分からないところは後回しにせず、完全に理解するまで諦めない。また、自分が理解しているように理解していない部分に気づくように、仲間同士でわからないところを教え合うようにしていました。朝から深夜まで1日中、仲間と苦楽を共にすることができたのも、地元の小さな塾だったからかもしれません。

受験する大学を決めたら、何が何でも諦めない気持ちを持ち続けることが大事だと思います。疲れる事もあるけれど、私は一度も勉強をやめようとか休もうかと思いませんでした。何より自分が決めた事だから「諦めない」そんな気持ちはずっとありました。浪人した1年間は、かけがえのない仲間ができたことと、自分の状況を受け止めるための大切な時間だったのだと今では思っています。

COLUMN 02

上司からの一言

中田 慶生さん

技術生産本部材料管理部材料購買一課 課長

入社4年目で既にチームの中心として活躍してくれています。社内外問わず誰からも信頼され、それを鼻にかけることもなく、ときには謙虚過ぎるのではと思うくらいの気持ちで業務に励み、日々成長している姿を見る事は私にとって非常に楽しみにしており、幸せな事でもあります。引き続き今の気持ちを忘れる事なく、キャリアを積み重ねていってください。期待しています。

高校生の皆さんへ！ message for student.

今、受験を控えて不安を覚えたり、逃げたくなったりしていると思います。人間は必ず楽な方に行こうとします。今、自分を甘やかすのは簡単です。今やっていることは必ず結果となって現れます。普通の高中生だった私でも、努力をすれば京都大学に入学することができました。自分に自信をもって頑張ってください。私の後輩として京大を目指す皆さんを心より応援します。



応援しています！

責任の重さをひしひし感じる日々

落ち込む日は、素敵な下着でテンションをあげて。

ります。ですが、学生時代に身につけた「まずは人の話を聞き、お互いに納得できる最高の妥協点を見つける」ことを常に意識することで、前向きに乗り切っています。

世の中の女性が、気分が落ち込んでいるときに、素敵な下着を身に着けることでテンションをあげて、日々笑顔で過ごせるようお手伝いができれば幸せです。私は毎日の気分や洋服に合わせて下着を選んでいます。もつと多くの女性に下着選びの楽しさや必要性を知ってもらいたいと強く思っています。そのためには様々な商品を理解し、どのようにアピールしていくか、ということが大きな課題だと感じています。

日々こうして忙しくしているので、休日のうち1日は必ず家でゆっくりするようにはしていますが、あとの1日は中高時代の友人や職場の友人とわいわいやっていきます。



いつかモノづくりの 仕組みを変えたい。

「ゆりがごから、ゆりイスまで」。ワコールには赤ちゃんの肌着から、シニア層の下着まで、すべての女性に必要な商品があります。これからも多くの専門知識を習得し、モノづくりの仕組みを考えていきたい。わからないことは「西岡さん」に聞けばなんでも解決する、といった「生き字引」のような存在を目指して努力していきたいと思っています。今よりもっといいものが作れるよう、会社や社会を変えてくれる人材になれば本望です。



FUKUHARA MITSUKO
福原 充子

理学部 理学科 卒業
大学院生命科学研究科 博士課程 修了
大阪府 清教学園高等学校 出身
特許業務法人 深見特許事務所



新しいことは何でもチャレンジ
興味のアンテナは常に多方面に向けて。

FUKUHARA MITSUKO

ギリギリまで自分を追い込んで挑んだ京大受験。

通っていたのは中高一貫校で、中学時代は強豪で有名ななぎなた部に所属していました。日々の厳しい練習の中では、礼を重んじる武道の教えを徹底的に叩き込まれました。高校では厳しい部活はせず、図書館に通って大好きな読書に耽る毎日でした。放課後には教科準備室で先生とおしゃべりすることも多く、そこで大学の話を聞いては大学生活や大学での授業に対するイメージを膨らませていきました。

地元関西を離れたくないという思いがあり、せっかくなら関西のトップ校を目指したい、昔から好きだった生物をしっかりと学べる理学部がある、ということ京大受験を決意。しかし、京大を目指したもののなかなか成績が追いつかず、卒業後1年間は腰を据えて勉強することにしました。女の子が勉強で身を立てることに周囲から色々意見はありましたが、自分が決めた道を進むことに迷いはありませんでした。絶対に落ちるわけにはいかない、という状況に自分を追い込むことで成績はぐんぐん伸びてゆき、晴れて1年後に京都大学理学部に入学することができました。



多分野の学生と議論三昧

京大にはあらゆるチャンスが用意されている。

京大に入って良かったと思えたのは、おもしろい人に出会えたこと。多分野の人が集まって開かれる自主ゼミ等もあり、例えばひとつの生命現象について、分子生物学的、生態学的、人文科学的、社会的といった様々な見方から議論が行われていました。所属の研究室でも、実験結果や話題の論文について議論できる場と人が身近にあり、研究の楽しさやおもしろさを自覚することができました。また、京大は、誰かに頼らなくても「やりたい」と強い意志をもつ学生には、あらゆるチャンスを与えてくれる場所です。私は、アルバイトをしながら複数の奨学金を利用して自力で生計を立てて大学院に進学し、博士論文を出して卒業することができました。生命科学研究科の支援を受けてフランスに短期留学できたことも有意義な経験でした。留学先では、自分から考えて行動を起こさないと誰も相手をしてくれません。上手ではない英語を駆使して、周りの研究者に質問をぶつけ、意見を交わすうちに腹が据わったように思います。そして、目的の結果を得て帰国することができたことは、非常に大きな自信となりました。一方で、大学院の頃は、下宿と研究室を往復する生活で、気分が落ち込む時期もありました。研究室に所属していると、毎日が実験の繰り返しで、限られた人間としか顔を合わせなくなり、視野が狭くなることを避けるため、研究室以外のコミュニティと積極的に繋がりをもつことを心掛けました。知名度が低く、何かと風当たりの強い大学院生の生活や研究内容を知ってもらおうと、アウトリーチ活動を始めたのも、その頃でした。また、気分転換に始めたスキューバダイビングは、今でも趣味で続いています。

最新の科学的知見を真っ先に知ることができる仕事。

卒業後はこのまま研究者として研究を続けるか、他の仕事に就くかをずっと迷っていました。科学の世界が好きだという気持ちには変わりなかったのですが、どのような立場であっても科学に携わりたいと考えていました。ちょうどその頃、iPS細胞の特許権争いが話題になっていたこともあり、日本で素晴らしい発明をしても特許戦略的に負けない事実を実感し、特許を扱う仕事に興味を持ちました。特許事務所に就職した今は、企業や大学が特許権を取得し、また取得した特許権を守るようなサポートする仕事をしています。



仕事の傍ら、弁理士試験に合格。

きる、というおもしろさがあります。また、自ら研究を行うのであれば、ある程度分野を絞る必要がありますが、ここではいろんな分野について、最新の科学や研究者の考えを知ることが出来ます。現時点では、特許に関わる法律も科学技術も決して成熟した存在ではなく、過渡期にあります。その両方の変化に対応していく、これからも科学に携わる人や環境を支えていきたいと思っています。

COLUMN 01

こうやって勉強しました。

生物と化学は、どのページのどの位置に何が書いてあったか、という所まで覚えるほど1冊の便覧集を繰り返し学習しました。数学は、応用が苦手という意識があったので基本的な問題集を繰り返しました。国語は、一文一文の意味を考えながら丁寧に文章を読むことを心掛けました。受験勉強とは、大学に受かるための一つのツールに過ぎないかもしれませんが、勉強した結果、知識が増えたり、物事を考える力をつけた人の人生は、きっと面白くなるはずだと思います。

COLUMN 02

上司からの一言

長野 篤史さん

化学バイオ部部长 弁理士

福原さんが入所してまもなく3年。その人柄と仕事に対する熱心さから、チームにもすっかり溶け込み、活躍してくれています。特許明細書の作成代理や特許取得のための諸々の手続代理など、仕事の幅も広がっています。現在益々注目されているバイオ技術の専門知識を生かし、知的財産法の専門家である弁理士として、さらなる活躍を期待しています。弁理士は、技術の専門知識と知的財産法の専門知識の両方を生かせる、とてもやりがいのある仕事です。これからも一緒にがんばっていきましょう。



応援しています!



高校生の皆さんへ! message for student.

それぞれの環境によるのかもしれませんが、私は「女の子はそんなに勉強できなくてもいい」、「家庭に入りやすい仕事に就いたほうがいい」等と言われることがありました。科学を突き詰めてみたいと考えていた自分にとっては悔しさもありましたが、目標を決めて邁進しているうちに、認めてくれる人に会えて学生時代を乗り越えることができました。頑張っていれば、自分を認めて応援してくれる人が現れます。ひるまず貪欲に突き進んでみてください。

～趣味のスキューバダイビング～

大学院生のときに、近所にあったダイビングスクールでライセンスを取りました。今も京大卒のダイバー達と、週末を利用して近場の白浜や越前に行っています。休日は勉強したり、カフェで読書して過ごすことも多いですが、スキューバダイビングは最高のリフレッシュ。海の中で自分を解放することで、自分らしさを取り戻すことができています。



とにかく日本酒が好き
定年を迎える日まで、
お酒に関わる仕事をしていたい。

HOTTA NATSUKI

堀田 夏紀

農学部 食品生物科学科 卒業
大学院農学研究科 修士課程 修了
大阪府 四條畷高等学校 出身
月桂冠株式会社



HOTTA NATSUKI

文武両道を目指した高校時代。

高校では学校の勉強もしっかり取り組みながら、中学時代から引き続きソフトボール部に入部し、文武両道を目指して日々を過ごしました。

進学校だったので、基本的に学校の授業や宿題を完璧にこなしていくことで成績は上がっていました。その頃は、授業中に寝ることは時間があったとは思っていませんでした。授業中は一切寝なかったのが私の自慢です。部活で主将を務めながら部活と勉強の両立を頑張っているうちに、順調に成績が伸びてゆき、高2になった頃には「京大を狙えるな」と自然と思えるようになっていました。実際、高1の時には京大のオープンキャンパスに参加したものの、まだ自分には手の届かない大学だとの気持ちの方が大きかったです。数学や化学、生物が得意で、料理や健康に興味を持っていてもあり、本格的に農学部を受験に向けて努力するようになったのは、京大を目指す周りの同級生に負けたくない、自分も京大に行きたい、との思いがどんどん強くなったからです。また京大農学部はソフトボールが盛んだということも知っていました。絶対に京大に行きたい！と思うようになり、何としても京大合格を目指すという気持ちでチャレンジしました。



毎朝5時に起床！超朝型生活で部活に明け暮れる日々。

晴れて京大農学部に入学した後はラクロス部に所属し、朝5時に起きて電車に乗り、7時から練習した後1限の授業に出る、という超朝型生活の毎日でした。大学院生の頃にはラクロス部のコーチもしながら、ソフトボール好きの女子チームを作って試合をしたり、有志で京都御所のグラウンドで朝練をしたり、と研究よりもソフトボールばかりしていたことが記憶に残っています。大学の部活は全て自分たち主体で、練習への取り組み方やチームのあり方、コーチやOGの方との接し方など、頭や気を使わなければいけないことが非常に多くあったので、その後社会人として仕事をすすめる上で、とても貴重な経験でした。

学業の方では有機化学の研究室に入り、はじめは植物に含まれる成分の機能性に関する研究をしていましたが、そこから派生した「抗がん剤がどのようなメカニズムでがん細胞に効果があるのか」というテーマで研究するようになりました。高校生の頃に抱いていた京大生の「賢い人だらけ」「ガリ勉だらけ」、というイメージは普段は全く感じることもなく、本当に素敵な人たちにたくさん出会えました。強い影響を受けた授業も現在の仕事に繋がることになったため、京大は私の人生に関わる様々なものに出会えた場所だったのだと思っています。



大好きな地元関西ですっと働き続けたい。



卒業後の進路を考えたとき、農学部で受けた月桂冠の研究所長を招いた集中講義に非常に興味を持ったこと、料理が好きだったこともあり、食品関係の会社で働きたい、と漠然と婚うようになりまして。そして、結婚や出産をしても働き続けたいという希望もありました。

何社か受けた食品関係のメーカーの中でも、かなり早い段階で月桂冠に入りたい、との思いが強くなり、研究室の先生やOBを頼って月桂冠社員との繋がりが増やし、入社したいというアピールをたくさんしました。月桂冠の総合研究所に入社後は、清酒酵母の育種や、これまでに育種してきた酵母がどのような遺伝的特徴を持っているのか、などを解析しています。クリーンベンチで酵母を扱ったり、遺伝子実験をしていることもありますし、小さいスケールでたくさん飲める清酒を造ることもあります。普段に飲むよりも美味しくお酒でも美味しく飲め

COLUMN 01

こうやって勉強してました。

高校時代は、塾や予備校に定期的には行っていませんでしたが、夏期講習、冬期講習などの京大対策授業は受講していました。センター試験は学校の授業で完璧にカバーできますが、京大の二次試験対策は本屋で買ったテキストや過去問はもちろん、大手予備校の京大模試の過去問などもたくさん解きました。高3の段階ではもう京大しか考えていなかったため、他の大学の対策は全くしていませんでした。

COLUMN 02

上司からの一言

石田博樹さん

総合研究所 所長

入社以来、清酒醸造に関する研究業務を遂行し、研究成果を出して、学会発表も複数回経験しています。上司となったのは今年の4月ですが、堀田さんは、研究者に必要な粘り強く頑張り続ける力もともと備わっているところに頼もしさを感じます。今後は、研究業務でうまくいかないこともあると思いますが、うまくいかない時間こそどうすればブレークスルーできるかを考え抜くことで、研究者としてさらに成長できると信じております。1つ要望があるとすれば、新聞やニュースをみて、国内外の消費者の思いを学んでほしいと思います。そうすれば、視野も広がり、国内外のお客様の生活にうるおいを提供できる研究業務につながると思います。大学の研究室の後輩でもあり、今後の成長を楽しみに見守っております。

応援しています!

高校生の皆さんへ! message for student.

インターネットで検索すれば何でも調べられる時代ですが、やっぱりオープンキャンパスなどの機会を利用して、大学に足を運んでみるのが大事だと思います。実際に見ることで、自分がどんな雰囲気のもとで学生生活を送りたいかイメージしやすくなりますし、勉強のモチベーションも上がると思います。

学生の頃はあまり好きではなかった研究 今では日本酒の素となる酵母の研究に夢中。

るように、また淡麗辛口の酒なら酸味を抑えて・といった様々な要求に応えるため、常に色々な特徴を持つ酵母を準備しています。今の職場では皆が仲良く、京大出身者も多いので、平日は仕事帰りに飲んだり、休日には一緒に山菜採りや魚釣りに行くこともあります。1日家にいるときは大好きな料理をすることが多く、魚をさばいたり、お酒にあうおつまみを作ったりして、日本酒を楽しんでいます。できれば大好きな地元関西で、定年を迎えるまで月桂冠で楽しく働き続けたいと思っています。

03



Advice!



お料理
アドバイス

ワンポイント

料理でお酒を使うとき、皆さんは「料理酒」を使っていますが?もしよかったら、バックに入った安いもので十分なので日本酒を使ってみてください。料理酒には塩などの副原料が加えられているので、日本酒を使う方が余分な塩味が付かず、素材のうまみが引き立ちます。ぜひ、試してみてください。



やっとスタートラインに立った私
いつかは手術を精力的にこなす名医に。

FUJIKAWA SHIORI

藤川 詩織

医学部 医学科 卒業

広島県 広島大学附属中学・高等学校 出身
大阪赤十字病院

FUJIKAWA SHIORI

部活と研究が青春！典型的理系の高校生。

4
高校生活はとにかく忙しかった、としか記憶にありません。所属していた管弦楽部（担当はバイオリン）の朝練から始まり、授業をしっかりと受けた後、放課後にはまた部活。それが終わると次は夜遅くまで塾で勉強。と土日まで部活・勉強漬けでした。高2からは理系クラスに所属し微生物の油脂分解酵素について研究していたこともあり、「北里柴三郎や志賀潔のような微生物学者になって新しい感染症を発見したい」と思っていました。中学生の頃から漠然と抱いていた京大受験の夢が目標へと変わったのは、自由の学風と著名な理系科学者を多く輩出している実績への憧れがあったこと、当時大好きだった生物の先生に「京大医学部に行け！」と背中を押して貰ったことがきっかけでした。ただ、成績がなかなか追いつかなかったので、京大医学部志望だとは高校を卒業するまで一度も周りに言えませんでした。現役時は微生物の研究ができる農学部を受験し、京都大学農学部資源生物科学科に入学しましたが、入学後に「ヒトの研究がしたい」という思いに改めて気がつき、仮面浪人して医学部を目指すことにしました。農学部では友達も沢山で毎日楽しんでくれたので、その状況の中で周りに流されずに受験勉強を続けることは本当に大変でしたが、念願の医学部に入学するため、勉強量を一層増やしてひたすら頑張りました。

ノーベル賞受賞者が目の前に

恵まれた環境の中で、自分の夢が大きく変わる。

「天才ばかりの憧れの地」という入学前のイメージ通り、ノーベル賞を受賞した山中先生や本庶先生という著名な先生方の講義を生で受けることができただけは、本当に貴重で素晴らしい経験でした。同級生も勉強ができるだけでなく、様々なセンスを持った魅力的な人が多く、刺激を受ける毎日でした。また京大の研究室は門戸が広く、学生は自分が興味のある研究室に出入りして勉強や研究をすることができたため、私も法医学の研究室で司法解剖に携わりながら勉強していました。

部活ではE・S・Sと写真部で副部長を務めたほか、音楽部でバイオリンも続けていました。2年生までは、生協学生委員会の「受験生サポート事務局」で事務局長として受験生をサポートする活動に忙しい毎日を通り、さらに趣味の海外旅行をするためにラジオ局の電話受付や学習塾のバイトもしていました。そのせいか、学業面では試験前に慌てて勉強する、といった医学生としてはあまりお手上本にならない生活をしていました。

そんな私を大きく変えたのは、4年生の夏に従事した糖尿病の研究と、5年生から始まった臨床実習でした。臨床実習で様々な診療科をローテーションした結果、もちろん研究には興味があっても色々と考えるのは楽しいけれど、自分にはもっと強く手を動かすほうが性に合っていると強く感じ、医師になってバリバリ手術をこなしたいと思うようになりました。

趣味はアイシングクッキーづくり。



切磋琢磨しながら研修をする充実した日々。



外科系志望だったので、大学卒業後は初期研修の2年間で内科をしっかり学んでおきたいと思い、内科研修の充実している大阪赤十字病院を選びました。初期研修では2年間で様々な診療科を経験し、医師としての基本的な仕事を身につけ、最終的に自分の専門診療科を決定します。私は現在、希望していた耳鼻咽喉科・頭頸部外科に配属され、ほぼ毎日、病棟患者の回診、手術、術後の回診、すべてが終わる19時から研修医の勉強会に参加しています。翌日の準備をして帰宅し、急当直で朝まで勤務し、土日のどちらかは病院に行つて翌週の手術の予習もしています。たまの休日には友人と食事を楽しむこともあります。今は学んだことがどんどん身につく、楽しいながらも同期と和気

現在、初期研修医2年目

学んだことがどんどん身につく毎日。

誦々、たまに切磋琢磨しながら研修をする充実した日々を送っています。まだスタートラインに立つたばかりの段階ですが、将来たくさんのお患者さんを救うため、数多くの手術をこなすことで腕を磨いていきたいと思っています。その反面、京都大学出身である以上はいつか研究にも従事しなければいけない・・・といった使命感にも燃えています。先のこととはまだわかりませんが、数多い選択肢が前にしたときに一番良い選択ができるよう、日々努力しています。

COLUMN 01

こうやって勉強しました。

ひたすら問題集を解き、出来具合によって「○・○・△・×」と印をつけて、すべての問題が○になるまで何度も解き直す、というのが私の勉強スタイルでした。この方法で、苦手分野は7周くらいしていたと思います。京大医学部の配点と自分の得意苦手を分析して、「英語理科で8割とれば数学は半分、国語は3割で受かる」と計画を立てていたため、模試のたびに自分の実力と目標点まで各科目どれくらいの開きがあるか考えて、それに合わせて勉強時間を配分していました。高2の夏に部活を引退するまでは1日3時間、それ以降は1日10時間くらい勉強しました。

COLUMN 02

上司からの一言

田中 信三さん

第一耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長

藤川さんはいつも積極的に手術に参加することで、技術と知識を伸ばそうと頑張っています。来年から耳鼻咽喉科・頭頸部外科を専攻し、我々の仲間として一緒に働きます。女医さんは徐々に増えつつあり立派に働く人も少なくありません。彼女の将来に期待しています。



応援しています！

高校生の皆さんへ！

message for student.

まずは、高い目標をもって何事も挑戦してみる。周りに何と言われようと、ひたすら努力を続ける。素晴らしい先生方や魅力的な同級生に囲まれた学生生活は、本当に充実していて、京大受験を諦めないで良かったと今でも思います。皆さんも是非挑戦する気持ちを忘れず、この自由の学風に触れてみてほしいと思います。



～お風呂でリラックス～

今、私が一番安心できる場所はお風呂です。手術でクタクタに疲れた日、当直明けで頭がボーっとしている時、シャワーだけではなくお風呂にお湯をはって、2時間ほど半身浴をします。お湯につかりながら高級なアイスクリームや果物を食べ、こだわりの入浴剤やお気に入りのボディスクラブの香りに癒されています。



上司の田中 信三部長、先輩の中平 真衣先生。

これからもずっとマイペース
育児も研究も気負わず続けたい。



TANI YURIKA
谷 百合夏

工学部 物理工学科 卒業
大学院工学研究科 修士課程 修了
兵庫県 北摂三田高等学校 出身
三菱電機株式会社



TANI YURIKA

突然やってきた京大受験のチャンス。

5
高校時代、思い出すのはただただ部活に励んだこと。県大会常連校の吹奏楽部に所属し、コンクール前は土日とも1日中練習、2年生の秋に部長になってからは80名ほどの部員をまとめ、3年生の8月に引退するまでずっと部活のことを考えている毎日でした。なので、3年生の夏休みはもちろん、冬休みになっても引退した安堵からかエンジンがかからず、塾に通うこともなく学校の授業と自主学習をこなす生活を続けていました。国立大学に行きたい、という希望はあったのでセンター試験を受けた結果、思いのほか自己採点結果が良く、そこで初めて「せっかくならレベルの高い大学に挑戦してみよう」と京大受験を目指すことにしました。オープンキャンパスには行ってませんが、両親から「京都大学は面白い大学だよ」と勧められたこともあり、残り一ヶ月でチャレンジすることにしました。学部は、天文や宇宙に興味があったため理学部と工学部で迷いましたが、物作りに関わりたいと思い、工学部の受験を決めました。ただ、とにかく時間がなかったので自分で時間を区切って効率よく、放課後にしっかり勉強するようにしていました。今となつては常に授業をしつかり理解し、予習・復習をかかさないと心がけていたことと、両親が「勉強しなさい」ではなく「浪人してもいいよ」と言ってくれていたことが肩の力を抜き、焦らずマイペースに頑張れた秘訣だっと思っています。

大学時代は興味の赴くまま、いろんなことにチャレンジ。

まず京大工学部に入學して驚いたのは、女子学生の少なさでした。物理工学科では250人中7人という状態でしたが、心配していたような違和感はなく、男女問わず仲良くすることができました。1回生の夏からは一人暮らしを始め、物工女子会と称しては数少ない女子学生同士で部屋に集まり、宴会をしたことはとてもいい思い出です。2回生になつてからはケイキ屋さんをはじめ、「京都にいるからには着物を着てみたい」という理由で、ふぐ料理店のバイト、その他にも最大4つのバイトを掛け持ちしていました。そこまでバイトを頑張ったのは、夏休みと春休みを利用してそれぞれ1か月間の語学留学をする、という目標があったからです。留学場所は日本人が多い土地の方が安心だと思い、カナダとオーストラリアに決めました。留学してみるとやはり周りは日本人だらけでしたが、語学の勉強は2の次、とにかく楽しい経験でした。3回生に入って専攻が分かれてからは専門的な授業が増えたため、バイトは控えて学業に重きを置くようになり、4回生で研究室に配属されてからは学業に専念するようになりました。学業も遊びも存分に満喫した京大、そこで知り合った人たちは色々な方向に飛び抜けている人が多く、尊敬できる人たちはばかりでした。そのような人たちに囲まれて6年間過ごすことで日々刺激を受け、自分の成長につながることでできたのだと思えます。

この分野で1番といえるような技術者に。



卒業後は研究職に就きたいと考えていましたが、物作りも好きだったので、製品に近い研究ができる「メーカーの研究職」を選びました。三菱電機に決めた理由は、見学の際に社員の方が、面白そうに自分の仕事の話をしてくれたのが印象的だったからです。また色々な製品・技術に関わることができるのも魅力で、所属している先端技術総合研究所では、今ある製品の改良の支援や提案、新しい製品・技術の開発等を行なっています。私は入社以来、人工衛星向けのセンサの開発をメインに担当し、理論解析からシミュレーション、実機での検証を行っています。機械・電気・制御と幅広い分野の知識が必要なので難しいことも多いですが、システム全体に関わることができ、とてもやりがいのある仕事です。また、今年の4月に育児休暇から復帰したことで、仕事

課題は仕事と家庭の両立 限られた時間で趣味も楽しみつつ、 研究もこなす。

COLUMN 01

こうやって勉強しました。

普段から授業の予習・定期試験の勉強はきっちりやっていた方だったため、センター試験に向けた勉強は苦手な地理・英語・化学等の暗記科目を中心に行いました。2次試験の対策は各教科一冊ずつ参考書を決め、それを何度もやりこむという方式でした。また、塾などに行っていなかったため自分で勉強の時間割を決め、やる気のある午前中は苦手な化学、眠くなるお昼過ぎからは好きな物理、というように飽きないように工夫していました。



と家庭の両立が今後の課題となりました。今までと違って時間が限られることも多いのですが、その中でも効率よく業務を進め、この分野では私が1番！と言えるような技術者になることが将来の目標です。

プライベートでは、今は子どもと過ごす時間が癒しの時間になっています。昔からハンドメイドが趣味で、育児中は時間を見つけて子供服や小物を作っていました。仕事に復帰してからはあまり時間が取れませんが、次は何を作ろうかと考えるだけでワクワクします。

COLUMN 02

上司からの一言

柏 宗孝さん

先端技術総合研究所 メカトロニクス技術部
機械動力学グループ・グループマネージャー

谷さんには新しいセンサの研究開発を担当頂いていることもあり、業務では未知の現象に直面する場面が多くあります。そんな時にも一つ一つ現象の要因を分析し、理論的な解析をベースにしながら実機でその妥当性を検証することで、着実に成果を上げてくれています。仕事と育児の両立は大変な点も多いかと思いますが、今後も研究者としての経験を積み上げていき、将来は一流の研究者へと成長することを期待しています。



応援しています！



～わたしの一週間～

平日は5時半起床。朝ごはん、身支度、晩御飯の下準備をして7時半に子供を保育園へ送ったあと、8時半に出社。会社では制御系のシミュレーションや解析等1日パソコンに向かう日がほとんどですが、実験室で実験をする日もあります。あつという間に17時になり退社、子供を保育園に迎えに行き18時半に帰宅後すぐに晩御飯、子どもと少し遊んで寝かしつけてから、片付けと翌朝の準備等を終え10時半頃に就寝します。土曜日は、子どもを夫に任せて1日ばかりで1週間分の料理・掃除・洗濯・・・日曜日は、午前中に親子3人で外に出かけ、午後は子どもと一緒に昼寝をしてまったりと過ごしています。

高校生の皆さんへ！ message for student.

とにかく授業はしっかり聞き、定期試験を頑張ること。大学生生活は楽しいです。たくさんの人に会え、何にでも挑戦することができます。私のように将来のことをぼんやりとしか考えていない人も、大学生活の中できっと興味あること、やりたいことを見つけられると思います。焦らず勉強を楽しんでください、応援しています。



く
ドネシアの
に貢献したい。

VALENTINE CINDY

バレンティン シンディ

農学部 食品生物科学科 卒業
農学研究科 修士課程 修了
インドネシア Sutomo 高等学校 出身
三洋化成工業株式会社

VALENTINE CINDY

日本留学を目指してひたすら勉強。

インドネシアで早期卒業プログラムを採用している高校に入学したため、高校生活はわずか2年間。留学を目指すクラスに在籍し、普通であれば3年間かかるカリキュラムを2年間で終えるため、月曜日から土曜日まで学校で授業を受け、さらに週に3日は塾に通い、ひたすら勉強に打ち込みました。理系の大学に入るには、コミュニケーションの英語だけでなく、科学のことも英語で理解しなければならぬため、英語の勉強も必死で頑張りました。日本留学を決めたのは、高校の先生の勧めで、文部科学省の国費外国人留学生奨学金制度を受けることになったからです。一番好きだった科目は生物学、初めて細胞の構造について習った時、「生命ってなんて神秘的なのだろう！」と感銘を受けてから、ずっと生物学の研究をやりたいと思っていました。日本語がわからないまま留学するのは不安でしたが、自分の可能性を知りたく、日本トップレベルの大学である京都大学受験に挑戦しようという気持ちになりました。高校では卒業することだけを目標に勉強していたため、勉強する目的について考えたこともありませんでしたが、京大の「自由の学風」の中で勉学に励む京大であるからこそ、「なぜ勉強をするのか」との疑問に対して答えが見つけれられるのではないかと、という思いもありました。そこから京大受験までの1年間は東京外国語大学で日本語を学び、授業が終わると毎日図書館にこもって閉館まで勉強しました。



「なぜ勉強するのか？」の答えを見つけた大学時代。

好きな生物学を応用することができ、人の健康に貢献できる農学部食品生物科学科へ入学しましたが、学部生の時はいろんな授業を受けるようにしていました。農学部の必須科目他に社会学や歴史学も受講し、1回生で多くの単位取得をしたおかげで、2回生では時間に余裕ができました。河原町で友達とショッピングやランチをしたり、社会人サークルでバドミントンを楽しんだり、京大病院で厨房スタッフとしてアルバイトも始めました。衛生面では特に気を使うことが多く、先輩の指導は厳しかったですが仲間との絆も深まり、毎日がとても充実して楽しかったです。大学院では、野菜に含まれるポリフェノール成分について研究し、ほぼ毎日研究室で過ごしていました。しばしば実験が深夜まで延びることがあり大変でしたが、達成感を感じることも多く、楽しい思い出たくさんできました。京大には異なるバックグラウンドを持つ人、まじめな人、ユニークな人など様々な人が在籍していたので、先生や友人との関係を築いていたので、自分の視野が広がることが実感しました。高校の時に抱いた「なぜ勉強するのか」という疑問も、研究室の生活を通じてわかるようになった気がします。研究室では先生から知識を教えてもらい、そこからは目標を達成するために自分はどうなことを身につければいいのか、どんなことを勉強しなければならないのか自主的に考えるようになったからだと思います。

世界中の人が健康でいられるよう、 これからも努力あるのみ。

夢は大きい
母国インドネシア
医療向上

三洋化成は化成品を主に作る会社ですが、医療機器や医療現場に使われる材料も作っています。化学と生物学はまったく違う分野ですが、生物の機能は非常に多様で化学とも深く関わっています。三洋化成に入りた、と思ったのは、あらゆる科学の知識を融合することで新しい技術を生み出し、世の中の豊かな環境に貢献している、という点に惹かれたからです。入社後は、高吸収性樹脂事業をマレーシアで開始するための工場立ち上げに関わり、現在は、病院やクリニックで使用される免疫検査薬の研究開発に携わっています。

責任ある仕事だからこそその達成感。
人の健康に貢献したい。

将来の夢は、医療機器や医療材料の研究にも関わり、新しい製品を作って母国インドネシアの医療向上に役立つこと。インドネシアも含めて、世の中の人の健康にどのように貢献できるかを考え、これからも自主的に勉強して、このことと努力していくのみです。



COLUMN 01

こうやって勉強していました。

私は苦手科目だった数学から、優先的に取り組みました。勉強する時間がないと焦ってしまうので、時間に余裕がある時に難しい問題をじっくり解き、理解するまで考えました。どうしてもわからない時は中断し、比較的簡単な科目に切り替えて勉強を続けました。簡単な科目で自信を取り戻してから、難しい科目に再挑戦することを繰り返しました。また、朝のぼろが頭が冴えて覚えやすいため、試験当日の朝は早起きして、暗記物を復習していました。時間と集中力をかけ、めげずにやっていたら努力は報われます。

COLUMN 02

上司からの一言

黒川祐人さん

診断薬研究部部長

シンディさんは、免疫を利用した体外診断用医薬品の研究開発に携ってまだ約2年ですが、一線級の人財になりつつあります。関係者の協力を上手に得ることができますし、見えないとこで多々自己研鑽していることと思います。もう少しで担当の製品が仕上がりますが、命を支える製剤を数多く世に出していきましょう。



会社の大先輩、山崎さんと。



高校生の皆さんへ！ message for student.

今、進路や将来やりたいことで悩んでいる人は少なくないと思います。私も当時そうでしたが、ひとつでもいい心が惹かれることを見つけて、それに向けて一所懸命になってください。努力したことは自信につながり、自分の力になります。また、何事でもすぐに無理だと言わずに、まずはやってみる!という姿勢で挑戦すること。新たな視野で自分の使命が見つかるはずですよ。大学に入ったあとは自由が待っています。そこで好きなことを、とことん突き詰めてください。



～私のリフレッシュ方法～

職場の山岳部に所属しているので、休日は仲間と山登り。月に一度のイベントもとても楽しみにしています。また、年に一度両親が日本に来るときには、一緒に京都観光をして喜んでもらっています。私はまだ生魚は苦手ですが、日本には美味しいものがたくさんあるので、色んな所に連れて行ってあげたいです。平日は仕事、休日は遊び、とバランスよく過ごしてリフレッシュするために、休日は仕事のことは完全に忘れてます!

Special!

京都大学体験型海外渡航支援制度 鼎会プログラム おもろチャレンジ

「おもろチャレンジ」は、“野生的で賢い学生を育てたい”、“異文化を理解し国際的に活躍できるグローバル人材を育成したい”という総長の想いを実現するための新しい体験型海外渡航支援制度。既製の留学ではなく、学生の主体的に海外で学んでみようという意欲を後押しすることを目的として、京大卒業生財界トップによる総長支援団体「鼎会（かなえかい）」の全面的な支援によって2016年度に創設されました。今回は、2017年に採択されたチャレンジ、舟橋 知生さんの【世界遺産都市における町家の外観意匠調査—震災復興と伝統意識の関係に着目して—】を紹介します！

FUNAHASHI TOMOMI

舟橋 知生

総合人間学部 文化環境学系 卒業
地球環境学堂 環境マネジメント専攻 休学中
岡山県 岡山朝日高等学校 出身
名古屋市役所

FUNAHASHI TOMOMI



女子高生・車座フォーラムで講演

世界を走る！自転車ガール

京大に入学して私が入部したのは、サイクリング部。先にサイクリング部に入部していた友達から、休みのたびに海外へ旅行し街中を自転車で駆け回る、といった話を聞いて単純に面白そう！今しかできないことってこれだ！といった好奇心からの入部でした。入部してみると思ったよりも過酷なチャレンジの連続でした。特に「24時間耐久ラン」。この行事に参加する女子部員はほとんどいなかったのですが、その時もただただ、面白そうという気持ちでのチャレンジでした。また、道の駅や公園で野宿しながら日本各地を旅したり、なんちゃって英語と困った時のスマイルを駆使しながら、ヨーロッパのアルプスを越えてウイーンからローマまで旅をしたり、といったことも経験しました。おかげでどんな環境にでもすぐに順応できるようになり、このことは全くの異文化であるネパールで生活していくうえでも、とても役に立ちました。



お祭りのティカをつけて

ネパールの古都 バクタプルで調査開始

「おもろチャレンジ」に採択される1年前、ネパールを訪れた私は、多くの建造物に見られる宗教的意匠、その多くは聖獣なのですが、そこでも興味を持ちました。帰国後、研究テーマしようと担当の先生に話したところ、「そんなものでは、研究テーマにならないよ。」とあっさり言われてしまいました。どうしても諦めきれず、きちんとした計画書を作って「おもろチャレンジ」に応募し、採択されることになったのです。

ネパールで起こった2015年の震災、その後どのようにまちなみが復興したのか。世界遺産都市バクタプルではその復興においてどのような意匠が選択され、その経緯にはどんな背景があるのか。震災後の盛んな伝統意匠の取り入れには、地震の影響による被災地の人々の伝統意識、宗教心の高まりが関係しているのではないかと、といった仮説を明らかにするべく、私はネパールへと出発しました。調査を進めるうちに、今回「おもろい」と仮説立てた世界遺産都市における新築町家の伝統意匠の取り入れと、

地震の影響による人々の伝統意識の再燃との関係性はほとんどない、ということがわかりました。「政府が進めている意匠だから。この意匠の意味は全く知らない。」との回答が大多数で、伝統意匠を取り入れていない町家も非常に増えており、そちらは経済的な理由で取り入れていないという回答がほとんどでした。この調査は私の意気込みに反して、政治的・経済的な理由といった全く「おもろくない」結果となってしまいました。しかしこの結果を通して、政策や産業の側面から震災後の伝統意匠の流行を見直してみると、震災以前から伝統意匠の価値が再燃しつつあったこと、大量生産によって意匠部材が広く市民に普及したことなどを背景として、震災が町家の建替えの契機となり、伝統意匠が盛んにまちなみに現れるようになったという流れが明らかにになりました。また、一見伝統意匠のように見えても間違った使い方をしているものも散見され、伝統的な意味合いを持つ意匠が、単なるファッションとしての意匠に変わってきていると感じました。世界遺産都市としてのこの現象をとらえること、非常に危うい状況だと考えられ、今後は伝統のファッション化とまちなみ保全、といった側面からバクタプルの街を見直してみたいと考えています。

苦勞とトラブルの連続、自分のペースを守ることの大切さ

現地では、当初の計画通りの日程で調査を終えることができたか、またもつと情報を集めておいたほうがいいのではないかと不安で早朝から調査をスタートさせる等、当初の計画よりも前倒しでより多くの情報を集めようと欲張り、体力的にも精神的にも辛くなってしまいました。何とか頑張れば計画を完遂できる、と思うあまり、なかなか素直に周りの助言を受け入れることができなかったのです。ネパールの人々は、「では明日」では今から」というように急なスケジュールで動くことが多く、私たちの普段の生活よりも、計画や予定を立てるのが3〜4割遅い印象を受けました。そのため、先方に合わせるばかりでは振り回されて、身体1つでは足りなくなってしまうます。本当に重要な約束はこちらからきちんと日時を指定して、「on timeだ!」ということをしつかり伝え、自分のペースを守ること大切なのだと思付くことができました。日々新たな状況が生まれ、相手に合わせて動くべきか、他に自分がすべきことがあるのか、常に選択を迫られ臨機応変に確かな判断をする、ということに非常に苦労しましたが、私としても最低限必要な計画と、理想的な計画をきちんと区別できていなかったことを反省しました。自身の臨機応変な計画力、対応力が試された滞在だったと思っています。

学問と仕事の両立を目指して

私は大学院の地球環境学室に在籍はしていますが、休学中です。現在は、就職した名古屋市の緑政土木局北土木事務所、主に道路や河川等の維持管理、公園・緑地及び街路樹の維持管理の業務を行っています。近々、大学院に復学する予定で、学問と仕事の両立を目指しています。大学院生でありながら社会人、といったスタイルは珍しいと思いますが、どのような形であつても目標があれば、色々なことにチャレンジすることが可能だと信じています。楽しい!面白い!その気持ちで自分の成長を支えてくれているのかもしれない。

高校生の皆さんへ!

message for student.

自分の夢に対して、周りに反対されたり、自信が持てなかったりすることもあるでしょう。それでも諦めずにビジョンとプランをしつかり持っていれば、自然とサポートを得られるようになるものです。部活や勉強、将来のこと、不安や期待で気分が落ち着かないこともあるかと思いますが、目の前の成績に一喜一憂せず、自分は今何ができるのか、どうしたらいいのか、志を絶やさずに一つ一つクリアしていくことで、可能性は大きくなります。京大という恵まれた環境の中で、夢が叶うことを応援しています。

